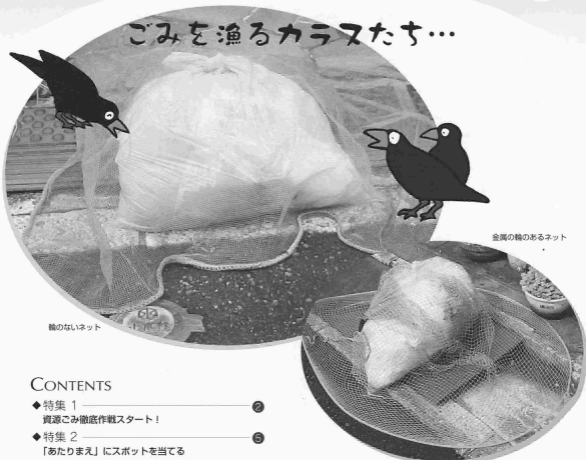


# ごみを減らそう!!

ごみを漁るカラスたち…



輪のないネット

金属の輪のあるネット

## CONTENTS

- ◆特集 1 \_\_\_\_\_ 2  
資源ごみ徹底作戦スタート!
- ◆特集 2 \_\_\_\_\_ 5  
「あたりまえ」にスポットを当てる
- ◆アンケート結果報告・NEWS \_\_\_\_\_ 6  
平成15年度総会開催
- ◆行政からのお知らせ \_\_\_\_\_ 8  
「京都市循環型社会推進基本計画」策定に向けて
- ◆Report \_\_\_\_\_ 9  
みんなで作り上げた平安神宮エコ切脂 2003年
- ◆会員探訪 \_\_\_\_\_ 10  
京都消費者団体連絡協議会・京都ホテル
- ◆Series 「やっています、わたしの住む町で、ごみ減らし」 \_\_\_\_\_ 12  
葛野ごみ減量推進会議  
中立地域ごみ減量推進会議

ごみ袋の一部が破れ、路上に中身が散乱…。ごみ収集日の朝、たびたび見る風景だ。犯人はカラス。「2年くらい前から、被害が目立つようになった」と、ごみ収集作業にあたる福井さん（上京まち美化事務所）。カラス防鳥策もいろいろだが、「専用ネットをかける」方法が普及しているようだ。管理者がシートをかけるマンションもあるという。ちなみに京（みやこ）エコロジーセンターでは、収集業者が来てからごみを出し、被害を防いでいる。平成13年度、京都市の家庭ごみ中、厨芥類（生ごみ）は約11万5000トン。食べ残しなどおいしいごみがある限り、カラスはごみを漁り続ける。

# 資源ごみ徹底

# 作戦スタート!!



分別の機軸を示す、高田さん

## 「資源ごみを活かそう会」に 会場いっぱいの参加が

まずは資源ごみについて知ることから、2月16日(土)京都府環境局の安田勇次氏を講師に招き学習会を開催した。出席前にどうすればいいのか、出すときどうすればいいのか、ペットボトルやスプレー缶などの容器を見せながら、安田氏が熱演した。質問も相次ぎ、熱気に包まれながらの資源ごみ徹底作戦のスタートとなった。

## 資源ごみパトロールを実施。袋を開けて指導も

学習会の後、資源ごみ収集日2月21日早朝、川東学区ごみ減量推進会議役員松重良枝さん、奥村百合子さんら7名がパトロールに出た。肩には「京都市ごみ減量推進会議」のたすきをかけ、手分けして資源ごみ回収拠点を回った。とくに異物混入やルールの乱れが目立つ丸太町通り、川端通り、冷泉通り、二条通りの大通りを強化、タイミング良く出してきた人に、チラシを渡し正しいルールを説明したりする場面もあった。異物混入が目立つ袋を開けてみると……、キャップがはずれていないペットボトル、汚れたままのびん、たばこの吸い殻の入った缶などが続出。ルールが守られていないことは明らかだった。美富院で使用されたのが、スプレー缶が大量に入れた袋もあった。早朝パトロールは、2月28日も行われた。



竹内会長を中心にパトロールの役割を決める



チラシを配って呼びかけ

## 川東の資源回収をなんとかしよう! 反省会で一致

資源ごみの学習会の開催やパトロール実施後に開かれた反省会(3月1日)では、「大部分の人が資源ごみの分別を理解していないのでは」「あまりにも無関心すぎる」「ルールが守られているのは10%程度?」と、あきれ声しきりだった。

川東学区ごみ減量推進会議としては、この現状を放っておくわけにはいかない、かといって行政だけではとていつ解決困難だ。地域のことから地域全体で取り組むことで一致した。その後すぐに、地域連合会長長宅訪問。実態を説明、資源ごみ徹底への協力を求めた。連合会総会で提案し、各町内毎に町内会長を中心に実行委員2名を決め、さらに町内単位で川東ごみ減量推進会議役員とともに学習会を開き、正しいごみの出し方を紹介しようということになった。協力体制を整える過程で、町内会メンバーのごみや環境に対する意識啓発が重要な課題となろう。

京都市では現在、缶・びん・ペットボトルの容器を資源として回収、平成13年度は、6887トンが再資源化(リサイクル)された。回収後、分別や圧縮・減容作業などを行う中間処理施設に運び込まれるが、資源以外の異物が混入し、たびたびトラブルが発生するなど処理を妨げている。京都市ごみ減量推進会議・広報活動実行委員会および、地域活動支援実行委員会・川東学区ごみ減量推進会議(竹内久雄会長)では、資源ごみを徹底させようと呼ぶ年度から合同で取組をはじめた。

## 缶の抜き取りへの対策に、会長自らが手をあげて

資源の中でアルミ缶は有償で引き取られるため、回収前に袋から抜き取られる事態が発生している。資源回収の前夜、抜き取りを自撃することもしばしばだ。

アルミ缶の利益が運営の支えでもある中間処理施設・横大路学園は、こうした事前抜き取りに頭を抱えている。川東学区では、この問題を重視し、当座の策としてアルミ缶だけを竹内会長宅で回収し、同学区川東学区体育協会の、高木会長経由で施設に直接持ち込むことに。

アルミ缶容器をめぐる問題解決の道はないものだろうか。

## 引き続き、資源ごみ徹底作戦を展開中

資源ごみ回収の異物混入などは、分別や出し方が行き届いていないことが大きな要因。川東学区ごみ減量推進会議では、これを徹底させようと呼ぶ年度もはやばやと学習会を開催した。

8月14日(土)の学習会には40名ほどが参加、「ペットボトル、びんはキャップをはずして」、「しょうゆは資源で、ソースは一般ごみへ」など、竹内久雄会長が出し方のルールを説明した。質問も次々と飛び交い「ふたの下は輪は、どうすればいいの?」「ラベルは?」「ソースはなぜ資源ではないの?」など、川東学区ごみ減量推進会議役員松重さんらが答えていた。

後半は、奥村さんが考えた、ごみの出し方に関するクイズが行われた。川東学区では、冷泉通りを隔てて北はプラスチック容器包装回収のモリル地区。通りの南では、プラスチック容器包装を一般ごみとして排出している。このため質問には正解が2つあるケースもあり、参加者がとまどう場面も。

町内会との協力体制が整った今年度、川東学区全体で資源ごみ徹底への機運が高まりそうだ。7月10日に実施予定の再資源化中間処理施設・京都横大路学園と京都市南部資源リサイクルセンターの見学。その他、ルールを告知する独自のチラシを回収袋で回したり、町内単位での学習会の開催を予定。併せて資源ごみのパトロールも継続するという。



竹内会長が学習会を進行させる

リユースびん回収拠点マップが出来ました!

# 「あたりまえ」にスポットを当てて

全市キャンペーン実行委員会 リユースびん検討チーム 遠藤明子



アイキャッチャーのあるポスターで呼びかけ

## リユースびんが増えるといいね

京都市ごみ減量推進会議リユースびんチームは、ごみの発生抑制、環境負荷の軽減、エネルギー・CO<sub>2</sub>削減を自覚し、1999年1月から市民・学生・びん商(洗びん・びん回収・新びん販売)を中心に活動を始めました。環境負荷が最も少ないと言われ100年あまりの歴史のあるリユースびんのシステムが瀕死の状態であることへの危機感から、再構築できないかと思う出会いを生み、市内で活動をしている他の動きとも交流を重ねてきました。このマップもそんな交流から生まれました。

「なにを今さらびん」チームがマップ作成の協力をお願いした京都府小売酒販組合・市部理事會での第一声はこれでした。「自分の店で売った一升びんやビールびんを引き取るのは当たり前」(マップに掲載したらシャッター開けたらびんの山つことになりまっせ)などマップに登録することで起こる不安や酒販店が抱

える問題点など恐怖の無いご意見を伺うことが出来ました。それらを整理すると次のようなものでした。

- ① 雑びん(リユース出来ないびん)とリユースびんの判断が消費者にはわからず、雑びんを黙って置いていかれた場合、その処理費は酒販店持ちとなり経営を圧迫する。
- ② 一升びんでも段ボール出荷が多く、P箱(通函)が不足がちである。

これらの指摘は、ひとえに使い捨てを前提にした(ごみ処理費を外部化した)メーカーの姿勢を問うものでした。雑びんを減らし、リユースびんを増やしていくことで先の問題を解決していくというチームと酒販店共通の目標を見出すことが出来ました。こうした共通理解をもとに当面、①回収品目を一升びんとビールびんに限定する。②マップへの登録は自由意志とし、毎年見直しを行い登録・更新はそのときを行う。③メーカーに対しリユ

全市キャンペーン実行委員会・リユースびん検討チームはこの程、京都府小売酒販組合と京都府酒類協同組合・青年部の協力を得て「リユースびん回収拠点マップ」を完成させました。このマップは、自店で販売した一升びんやビールびんは、自店で回収するという由来から行われている酒販店の商習慣を広く市民に知らせることで、市の収集に再使用(リユース)出来るびんが混入しカレット化することを防ぎ、市の収集・中間処理経費削減に寄与することを目的に作成。行政区単位でまとめたマップは、現在、各区役所、支所、エコロジィセンターやマップ参加協力酒販店などに配布・設置しています。

1 スビン採用をともに働きかけていく。  
 ④リユースびんに関する学習会を開催する。組合の申し合わせを行い、マップ登録を参加店の酒販店に呼びかけていたできました。今年度の登録は、124店(組合加盟店および300店)となりました。これを地図に落とし込み基礎データ化しました。

### パートナーシップの成果はこれから

出来上がったマップとポスターは、区役所・リサイクルセンター・エコロジセンターなどの京都市の機関に配布・設置されることになっています。また、マップ登録店舗や酒販組合にも配置されます。このマップ作成の目的は、

- ①びんには、リユースびん(何度も洗って使える)とワンウエーびん(使い捨て)の2種類があり、リユースびんがごみの発生抑制に有効な容器であること。
- ②従来から消費者と酒販店の間で行われている「買ったお店にびんを返す」という習慣を再認識してもらうことでリサイクルからリユースへ生活意識の変革をつながすこと。
- ③その受け皿を各行政区ごとに地図に落とし込み、そこに住む市民が、身近なところを買ったお店に返す行為を誘導

することで、ごみ処理(リサイクル)費用軽減、エネルギーやCO2削減に繋げる。

というものです。これらの趣旨をより広く市民に知っていただくために、消費者まつり、ごみ祭2003年、各区で開催されるふれあいまつりなどに出席参加することとしています。マップ作成から配布・設置という市民・事業者・行政がそれぞれの役割を担い、補充しながら取り組んできた事業は、これからその成果が問われることとなります。



# 特集

03年4月27日付朝日新聞



「リユースびん」の普及を促すマップ作り。京都市民・企業・行政が協力して作成。

**酒屋さんが待ってるよ**  
 京都市民・企業・行政が協力して作成した「リユースびん」の普及を促すマップ作り。京都市民・企業・行政が協力して作成。



「リユースびん」の普及を促すマップ作り。京都市民・企業・行政が協力して作成。

### 回収協力店をマップに

**酒販店大誌に**  
 京都市民・企業・行政が協力して作成した「リユースびん」の普及を促すマップ作り。京都市民・企業・行政が協力して作成。

**回収協力店をマップに**  
 京都市民・企業・行政が協力して作成した「リユースびん」の普及を促すマップ作り。京都市民・企業・行政が協力して作成。



**市民と企画**  
 京都市民・企業・行政が協力して作成した「リユースびん」の普及を促すマップ作り。京都市民・企業・行政が協力して作成。

### きれいなリユースびん

店名	住所	備考
ABC	〒100-0001 東京都千代田区千代田	
DEF	〒100-0002 東京都千代田区千代田	
GHI	〒100-0003 東京都千代田区千代田	
JKL	〒100-0004 東京都千代田区千代田	
MNO	〒100-0005 東京都千代田区千代田	
PQR	〒100-0006 東京都千代田区千代田	
STU	〒100-0007 東京都千代田区千代田	
VWX	〒100-0008 東京都千代田区千代田	
YZA	〒100-0009 東京都千代田区千代田	
BCD	〒100-0010 東京都千代田区千代田	
EFG	〒100-0011 東京都千代田区千代田	
HIJ	〒100-0012 東京都千代田区千代田	
KLM	〒100-0013 東京都千代田区千代田	
NOP	〒100-0014 東京都千代田区千代田	
QRS	〒100-0015 東京都千代田区千代田	
TUV	〒100-0016 東京都千代田区千代田	
WXY	〒100-0017 東京都千代田区千代田	
ZAB	〒100-0018 東京都千代田区千代田	
CGH	〒100-0019 東京都千代田区千代田	
DIJ	〒100-0020 東京都千代田区千代田	
EKL	〒100-0021 東京都千代田区千代田	
FGH	〒100-0022 東京都千代田区千代田	
HIJ	〒100-0023 東京都千代田区千代田	
IKL	〒100-0024 東京都千代田区千代田	
JMN	〒100-0025 東京都千代田区千代田	
KOP	〒100-0026 東京都千代田区千代田	
LQR	〒100-0027 東京都千代田区千代田	
MST	〒100-0028 東京都千代田区千代田	
NUV	〒100-0029 東京都千代田区千代田	
OWX	〒100-0030 東京都千代田区千代田	
PYZ	〒100-0031 東京都千代田区千代田	
QAB	〒100-0032 東京都千代田区千代田	
RCD	〒100-0033 東京都千代田区千代田	
STU	〒100-0034 東京都千代田区千代田	
VWX	〒100-0035 東京都千代田区千代田	
YZA	〒100-0036 東京都千代田区千代田	
BCD	〒100-0037 東京都千代田区千代田	
EFG	〒100-0038 東京都千代田区千代田	
HIJ	〒100-0039 東京都千代田区千代田	
IKL	〒100-0040 東京都千代田区千代田	
JMN	〒100-0041 東京都千代田区千代田	
KOP	〒100-0042 東京都千代田区千代田	
LQR	〒100-0043 東京都千代田区千代田	
MST	〒100-0044 東京都千代田区千代田	
NUV	〒100-0045 東京都千代田区千代田	
OWX	〒100-0046 東京都千代田区千代田	
PYZ	〒100-0047 東京都千代田区千代田	
QAB	〒100-0048 東京都千代田区千代田	
RCD	〒100-0049 東京都千代田区千代田	
STU	〒100-0050 東京都千代田区千代田	
VWX	〒100-0051 東京都千代田区千代田	
YZA	〒100-0052 東京都千代田区千代田	
BCD	〒100-0053 東京都千代田区千代田	
EFG	〒100-0054 東京都千代田区千代田	
HIJ	〒100-0055 東京都千代田区千代田	
IKL	〒100-0056 東京都千代田区千代田	
JMN	〒100-0057 東京都千代田区千代田	
KOP	〒100-0058 東京都千代田区千代田	
LQR	〒100-0059 東京都千代田区千代田	
MST	〒100-0060 東京都千代田区千代田	
NUV	〒100-0061 東京都千代田区千代田	
OWX	〒100-0062 東京都千代田区千代田	
PYZ	〒100-0063 東京都千代田区千代田	
QAB	〒100-0064 東京都千代田区千代田	
RCD	〒100-0065 東京都千代田区千代田	
STU	〒100-0066 東京都千代田区千代田	
VWX	〒100-0067 東京都千代田区千代田	
YZA	〒100-0068 東京都千代田区千代田	
BCD	〒100-0069 東京都千代田区千代田	
EFG	〒100-0070 東京都千代田区千代田	
HIJ	〒100-0071 東京都千代田区千代田	
IKL	〒100-0072 東京都千代田区千代田	
JMN	〒100-0073 東京都千代田区千代田	
KOP	〒100-0074 東京都千代田区千代田	
LQR	〒100-0075 東京都千代田区千代田	
MST	〒100-0076 東京都千代田区千代田	
NUV	〒100-0077 東京都千代田区千代田	
OWX	〒100-0078 東京都千代田区千代田	
PYZ	〒100-0079 東京都千代田区千代田	
QAB	〒100-0080 東京都千代田区千代田	
RCD	〒100-0081 東京都千代田区千代田	
STU	〒100-0082 東京都千代田区千代田	
VWX	〒100-0083 東京都千代田区千代田	
YZA	〒100-0084 東京都千代田区千代田	
BCD	〒100-0085 東京都千代田区千代田	
EFG	〒100-0086 東京都千代田区千代田	
HIJ	〒100-0087 東京都千代田区千代田	
IKL	〒100-0088 東京都千代田区千代田	
JMN	〒100-0089 東京都千代田区千代田	
KOP	〒100-0090 東京都千代田区千代田	
LQR	〒100-0091 東京都千代田区千代田	
MST	〒100-0092 東京都千代田区千代田	
NUV	〒100-0093 東京都千代田区千代田	
OWX	〒100-0094 東京都千代田区千代田	
PYZ	〒100-0095 東京都千代田区千代田	
QAB	〒100-0096 東京都千代田区千代田	
RCD	〒100-0097 東京都千代田区千代田	
STU	〒100-0098 東京都千代田区千代田	
VWX	〒100-0099 東京都千代田区千代田	
YZA	〒100-0100 東京都千代田区千代田	



リユースびんを通せる小売店がわかるマップ。行政区単位で作成

## ■会報について

- 会報が読みやすかったかどうかという問いには29名（全体の67%）の方々から読みやすいという印象を抱きましたが、閲読頻度に関しては

1. 毎号欠かさず読んでいる 13名
2. 時々読んでいる 15名
3. 興味のあるテーマの時は読んでいる 13名
4. (あまり) 読んでいない 4名

と、ばらつきありました。

- 情報の満足度も「まあ満足している」が43名中30名と、今後への期待の方に力点を置いた結果となりました。

- 主な自由回答では
- ①結果報告誌のように思える。展望が薄い
  - ②会員が参加できるタイムスケジュールの記載がない→交流につながらない
  - ③毎月のごみの焼却量が減ってきているグラフを載せてほしい

等のご意見をいただきました。

- 今後の情報内容として欲しいと思われるものとはという問い（複数回答）には以下のような結果をいただきました。

1. 資料やデータを豊富に [11]
2. 海外のごみ事情事例 [13]
3. 国内のごみ事情事例 [18]
4. 絵や図を豊富に [6]
5. 昔の生活の知恵 [13]
6. 企業内ごみ減量の事例 [20]
7. 家庭でできるごみ減らしのノウハウ [24]
8. 学校の取り組み事例 [9]
9. ごみ減らし達人の紹介 [15]
10. 行政の取り組み最新事例 [20]
11. 企業の社会貢献事例 [12]
12. その他（小地域（町内単位）でできるごみ減らしノウハウ、容り法の全面実施に向けての計画をもう少し具体的に）

## INews

びんの再利用システムについて発表する遠藤さん



「びん再利用システム」をテーマに、リユースびん活用のしくみなどについて発表した。

平成15年度は、以下の事業の実施が予定されている。

### 全市キャンペーン実行委員会

- ・ 買い物袋持参・簡易包装キャンペーン
- ・ 再生紙利用促進キャンペーン
- ・ めぐれトペーパー利用拡大
- ・ 市民向けごみ減量実践講座の開催、地域ごみ減と共同
- ・ 市役所前フリーマーケット年間13回開催
- ・ 調査研究
- ・ びん再利用システムに向けた取り組み、地域と連携
- ・ リユースびん回収マップの更新、講演会など
- ・ 第3回「E」もワークショップ

7月27日（日）午前10時～午後3時／京エコロジ

## 京都市ごみ減量推進会議 平成15年度総会開催

6月6日（金）京都市立美術館にて

京都市ごみ減量推進会議の活動の節目となる、総会が去る6月6日開かれた。

平成14年度の事業報告、収支決算に続き、平成15年度の事業計画、収支予算が承認された。また、引き続き、京都市ごみ減量推進会議・リユースびん検討チームから、遠藤明子さんが活動報告を行った。「京都市におけるびん再利用システム再構築」

# 「会報」についてのアンケート結果報告

昨年実施致しました会報についてのアンケートのご報告をさせていただきます。  
アンケートでは大きく分けて、会報自体についてのご感想と今後の京都市ごみ減量推進会議の活動についてお聞きしました。アンケートの回答をいただいた総数は43通でした。

## ■今後の活動について

今後の活動として期待したいものについては以下のような結果となりました

1. 人と人とのつながりをつくっていききたい [9]
2. 子供や学校を対象とした教育プログラムをつくってみたい [17]
3. 企業と地域のつながりを深めたい [11]
4. 地域のボランティア活動に参加したい [3]
5. 花と緑の町づくりを実現したい [11]
6. ごみ講座を開催したい [11]
7. フリーマーケット、リサイクル市を開きたい [5]
8. ごみフェスタを継続したい [3]
9. シンポジウムやセミナーの開催を期待したい [14]
10. 買ひもの袋持参キャンペーンを続けたい [12]
11. エコクッキング教室を開催したい [6]
12. グリーン購入をもっと広げたい [15]

また自由回答で

- ①プラスチックの包装が多すぎる。紙にかえられるものは紙に
- ②エコロジーチェックの普及
- ③低コストで実施できる企業ごみ（オフィスの紙ごみ）の回収、リサイクルシステムの紹介ならびに構築などの貴重なご意見をいただきました。

センター

### 地域活動支援実行委員会

- ・地域ごみ減量推進会議立ち上げや活動支援
- ・使用済みてんぷら油リサイクル事業
- ・地域学習会などの活動
- ・買ひ物袋持参・簡易包装推進キャンペーンへの参加
- ・市民向けごみ減量実践講座の開催（全市キャンペーンと共同）
- ・資源ごみ徹底作戦（広報と共同）

### 広報活動実行委員会

- ・会報誌の発行
- ・ごみ減量実践講座の開催（商工会議所と共催）
- 5回開催（9月11日、10月9日、11月13日、1月22日、2月12日）予定・京都商工会議所2階教室。
- 「見て聞いてミニごみツアー」も3回開催
- ・ホームページの運用
- ・資源ごみ徹底作戦（地域と共同）

### 事業化委員会

- ・事業系ごみ減量などの指定袋導入に向けた取組
- ・業界系ごみ減量に向けた取組支援（K.E.S.等）
- ・地域に密着した商店などに対してごみ減量取組を促進し、市民（地域住民）と事業者の間面からごみ減量を図る。

### 秘密書類リサイクル事業実行委員会

- ・参加事業者の拡大

### 京（みやこ）エコロジーセンターとの連携

- ・エコロジーセンターとの連携による事業の展開

## 「京都市循環型社会推進基本計画」策定に向けて

環境共生型都市・京都の実現に向けた取組が進められる中、京都市廃棄物減量等推進審議会では、昨年7月、京都市のごみ行政の基本的な方針・目標を示す計画である「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の見直しについて京都市長から諮問を受け、議論を重ねてきました。審議会は先月、議論の中間まとめを固めました。それについて市民の意見募集を行うとともに、6月15日（日）京都ごみ祭りでは、意見交換会をひらくなど広く市民の意見を求めました。これを踏まえ、9月中に最終答申としてまとめる予定にしています。

### 新しい計画での考え方

#### 基本的な考え方

##### 【上流対策】

市民・事業者主体の発生抑制・再使用の推進、行政はそれをサポート

##### 【分別・リサイクル対策】

多様な分別・リサイクルのメニュー提供

##### 【適正処理対策】

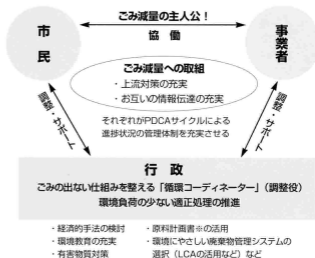
環境にやさしい廃棄物管理システムの選択

#### 配慮視点

- COP3開催都市として、地球温暖化防止の観点も計画に盛り込むべき
- 製品中の有害な化学物質を総合的に管理するという考え方が重要
- 高齢化や共働きなど、社会情勢の変化も踏まえることが必要

これらを踏まえ「元気になる、明るい循環型社会を目指す！」

- ・ ものの消費より機能の利活用を重視した21世紀型産業が創成された活力のあるまち
- ・ 市民・事業者自らの参加と選択の下に形作られた満足度の高いまち
- ・ 環境への負荷が軽減された「安全・安心」度の高いまち



### 具体的な取組の中身としては

市  
民

#### <ごみを出さない消費行動の実践>

・ 買い物にマイバッグを持っていく ・ リターナブル容器商品や詰め替え商品を選ぶ など

～家庭系ごみ減量の取組支援～

行  
政

#### <情報面からの取組促進施策> ・ グリーンページの作成 など

<協働の取組> 上流対策に係る取組の充実、循環ビジネスの促進 など

<経済面からの取組促進施策> 家庭ごみの有料化や事業系ごみの搬入料金の設定 など

～事業系ごみ減量の取組支援～

事  
業  
者

<ごみを出さない事業行動の実践> ・ ペーパーレス化を推進 ・ 資源ごみ等の分別徹底 など

※詳しくは、京都市廃棄物減量等推進審議会事務局へ

〒604-8571 京都市環境局環境政策部循環型社会推進課内  
TEL:075-222-4091 FAX:075-213-9453

★ホームページもご覧いただけます。  
<http://www.city.kyoto.jp/kankyo/recycle/>

# みんなで作り上げた 平安神宮エコ初詣 2003年

京都の皆様へ感謝

昨年本誌「ごみを減らそう！」10月号で、平安神宮初詣の「イベントのごみゼロ」をご一緒にと呼びかけさせて頂きましたところ、京エコロジーセンターに事務所がある「京のアジェンダ21フォーラム」で先進的な会議を重ねている「えこまつりワーキンググループ」と「エコトーン」が中心となって話し合いが進み、川端警察署や露天商組合との打合せ、スタッフ募集、机や表示のレンタル、実施計画やプログラム作成、トラック手配などをして下さり、無事実施して頂きました。心からお礼申し上げます。

## 実施方法

実施に当たり、どのような方法にするか問題でしたが、リサイクルステーションを作り、そこで参加者がトレーを2度洗い、割箸、串、缶、ペットボトル、燃えるごみの6種分別をするという形になりました。

リサイクルステーションは、長机の上にペットボトルの上半分を切った割箸、串の回収箱を置き、洗し桶を4つ並び、その中に水と長い柄の付いたスポンジたわしを入れました。また、缶、ペットボトル、燃えるごみは厚秀英の大きな回収箱を使いました。

洗し水は45リットルのポリバケツを2つ用意し、1つは公衆トイレの水通水をホースで入れ、他方は空のままで順次汚水を入れました。

スタッフは、リサイクルステーション作り、声かけ、分別指導、トレーを拭きポリ袋に入れる、洗し水を替える、割箸・串回収箱の中がいっぱいになったら、ざるに入れて干し、ポリ袋に入れる、最後に排水処理をし、洗し桶、タオルを洗い片付けました。散乱ごみを拾い、ポリバケツの洗し水を補充する班もありました。道具は千里リサイクルプラザから借用です。

リサイクルステーションは、参道が歩行者天国になる大晦日22時から6時まで、元旦10時から17時まで、5カ所設置しました。スタッフは1カ所3名、2日で30名は必要でしたが



子どもたちが洗うのを見守る父親と母親



大きな呼び声に集まって分別する参加者

過酷な条件にもかかわらず、メーリングリストで学生さんを中心に延べ33名が集まりました。

2日・3日はリサイクルステーションを出さず、ビデオカメラによる観察をしました。トレーは3工エコビコに再生依頼しました。

## スタッフと参加者に感動

トレーを洗うとき、晴れ着を汚さないか、道路の流れを止めないかなど、とても心配でしたが、スタッフは大きな声の呼び込みや分別指導を鮮やかにこなし、トラブルは皆無で散乱ごみもなく、8割程度の方が綺麗に洗って下さり、この取り組みに感激した参加者に握手を求められたスタッフがいたり、友人待ちの若者たちが飛び込みでお手伝いしてくれるなど、じんと力強い感動が湧き上がり日本の未来は明るいと感じる「みんなで作り上げたエコ初詣」でした。分別者は割箸・串回収量26kgから推定1万人、飲食店前は75、各店3が日で2500食でした。

## リサイクルからリユースへ

2・3日のビデオを見ると散乱ごみがみるみる例年のごとく山になりました。露天商組合、平安神宮、市、環境団体が集まり抜本的な対策が話し合われることを願います。

石川県が食器洗浄機搭載車ピカピカ号を作り、使い捨てをやめてリユース食器を使うことを薦めています。札幌市も始めます。

明川さくら祭りでは「えこまつりワーキンググループ」と「ユニバーサルユース研究会」の努力で食器洗浄機が使用されました。

リサイクルからリユースへそして食器持参のリデュース型社会になることを望みます。



綺麗に洗えたのを確認。晴れ着の方も分別



# Series 会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回も2団体の活動を取材した。

取材：浅利美鈴（京都大学環境保全センター 大学院生）

## 京都消費者団体 連絡協議会

Q どのような団体なのですか？

A 京都消費者団体連絡協議会（通称「京消費者団体連絡協議会」）は、その名の通り、各消費者団体のネットワークの拠点のような位置づけです。従って、各団体に対して問題の投げかけを行ったり、逆に問題提起を受けて検討したり・・・全体の総力を担っていると言っています。また、生協や市民・婦人団体を中心とした26団体がメンバーになっています。

Q 「ごみ問題」に対する取り組みは？

A 今、私たちがテーマとして挙げているのが、①食の安全、②ごみ・環境、③消費者の権利など。ごみ問題は非常に重視していることがわかって頂けるかと思いますが、当会のごみ問題への取り組みは1990年に遡ります。当時は、アースリキをきっかけとした地球環境保全運動の盛り上がり、原子力発電問題への懸念等から、地球環境問題に関する取り組みが活発化しました。その取り組みの中で、私たち一人ひとりが何をしなければならぬか、何ができるか、という問いかけが行われ、多くの消費者・市民がリサイクル活動に参加しはじめたのです。「使い捨て社会」を反省し、リサイクルを前提にした経済社会システムをめざしているというものでした。

Q 大きな成果がありますか？

A ごみ問題に関する勉強会や清掃・工場見学会を行い、1990年の京都市消費者祭では「いれればいい、いけば資源」をテーマ

に啓発活動を行いました。また、多くの消費者・市民団体との学習・交流を深めるなかで、1991年京都消費者大会では、「3半減化宣言」を行いました。そのような取り組みのこぼれが、「リサイクル」「ごみ減らさず」といった言葉や概念は消費者や市民に浸透したように感じています。また、各事業体にも積極的な取り組みがみられるようになり、例えば先取型の「買い物袋持参運動」を進めてきた生協等では、80%程度のレジ袋削減に結びついたと言われています。「ごみ減らさず」への取り組みはまだまだ続きますが、一歩一歩前進していることを感じます。

Q 新たな課題も？

A 昨年度より新たなテーマとして取り組んでいるのが「化学物質と環境」の問題です。私たちの暮らしは化学物質なしには考えられなくなっています。これらの影響を受ける一方で、化学物質による環境汚染や健康被害のリスクの増大が懸念されます。このような問題の理解を深め、化学物質リスクの削減をめざすために、6月15日にはシンポジウム、8月にはセミナーを開催する予定です。多くの方々の参加をお待ちしております。また、これをきっかけに今年度は「有害廃棄物」に目をむけ、調査・研究活動を行えばと考えております。

Q グリーンコンシューマーも新テーマ？

A 03年3月1日から5月5日まで、「グリーン製品グリーンコンシューマーキャンペーン」を実施したのですが、当会その企業団体に入っておりません。一目でわかる環境ラベルを表示し、家電製品を買い替える際だけでなく省エネ性能の高い製品を選んで買うように促そうというものです。このように消費者に情報を提示して、できるだけ環境に優しい選択をさせる

消費者、いわゆる「グリーンコンシューマー」を増やすことも重要だと思っています。

Q 組織として転換期を迎えているとか？

A これまでの当会の活動は、どちらかというと消費者問題に対する運動・意見表明や主張を強くアピールすることが中心でした。しかし、これからは、消費者への情報提供や教育、意識啓発が不可欠な状況に行える組織への転換が求められていると考えています。グリーンコンシューマーの話がまだ、まさに環境問題・ごみ問題をめぐる、賢い・学ぶ消費者がライフスタイルを見出し、消費行動や消費者を取り巻く環境を変えていくために・・・そのためにも、今秋のゼロ法人会を目指しております。これを機に地道な取り組みで、新世紀の消費者運動を進めて行きます！



取材に応じてくださった  
会長 浅利美鈴さん

### 京都消費者団体連絡協議会

◆会員情報

名称：京都消費者団体連絡協議会

会長：原 誠

会員事業体：26団体 結成：1972年

所在地：〒604-0847

中京区烏丸二条下区七ロセビル5F

TEL：075-251-1001 FAX：075-251-1003

テーマ：

- ・わたしたちは、消費者の暮らしと健康を守り、消費者の権利の向上をめざします。
- ・わたしたちは、環境汚染を防止、地産地消を保全することをめざします。
- ・わたしたちは、京都の消費者団体の連帯を強めて、京都の消費者運動を発展させることをめざします。

## 株式会社 京都ホテル

名称：株式会社 京都ホテル  
 業務内容：ホテル業  
 社長：島津忠之 従業員：372名  
 資本金：950,000千円 売上高：10,052,102千円  
 創業：1888年  
 本社所在地：  
 〒604-8558 中央区河原町御池  
 TEL：075-211-5111 FAX：075-254-2529  
 URT Home Page：http://www.kyotohotel.co.jp



京都ホテルオーケラのダンボールと蛍光灯管の状況

取材に応じてくださった  
 総務部付専門役 高橋  
 さん  
 環境保全推進プロジェクト  
 チーム 見田員香さん



## 株式会社 京都ホテル

**Q** 2つのホテルをお持ちなのですね？

**A** 京都ホテル（以降、当社）は、京都市役所近郊の「京都ホテルオークラ」と通称鳥丸南入ルの「からすま京都ホテル」を運営しております。週末などは、宿泊や宴会、お食事等ご利用になるお客様は、京都ホテルオークラだけでも1日平均2,000人以上に上ります。ホテルはまさに大きな「ミニシティ」で、できるだけ快適さを維持するため、廃棄物の処理を含め、様々な取り組みや工夫を重ねています。

**Q** 毎月「環境会議」を開かれているの？

**A** エネルギー消費量やごみ発生量、リサイクル量等については、部署ごとにデータを取集し、環境保全推進プロジェクトチームで一括して把握しています。そして、各部署の長が毎月一回「環境会議」に集まり、その結果を評価し、増加・減少の原因について議論し、今後の取り組みに活かすようにしています。「環境会議」以前には、省エネルギーとリサイクルの小委員会を設置しておりました。当社は01年10月にKTR（京都環境マネジメントシステムスタンダード）の登録認証を得たのですが、このような業地があったからと、すんなりと進んでいけるのだと思います。やはり、環境対策については、「常に備え常に対応する」と、そして「組織立てて実行する」ことが大切。

**Q** 社業で取り組む秘訣は？

**A** KES登録認証取得以降、社員全員が「環境宣言カード」を身につけるようになってきました。これが一つのバックボーンになっているのです。また、採用研修でも一定の時

を削いで環境教育を実施。それに、環境保全推進プロジェクトチームからは、毎日欠かさず社員全員に環境問題に関する、紙やリサイクルといったテーマに基づくメールを送信。毎日続けているうちに、質問、情報提供などもあり双方向のコミュニケーションが可能になってきました。継続的に、誠意を持ち、ホテル各部署の現場との意思共有を図ることが大切なですね。

**Q** うわー！30種類の分別？

**A** 京都ホテルオークラでは表に示す約30種類の分別回収。さらに各分別ごとに専門業者に委託してリサイクルと適正処理を行っております。このように分別項目をわけると、それぞれの特性や条件に応じたごみ減らしの手段を講じることもできるようになりました。例えば、特に発生量が多かったが、燃やして処分は「一般ゴミ」でしたが、分別してリサイクルに回す量を増やすことで、燃やして最終処分する量を大幅に減らすことができました。調理現場から出る量が多い「厨芥ゴミ」は水切りを徹底しています。各現場で水切り前後の重さを測定して量が、押り出した水の量は宴会調理部門のメニューから毎月約40リットルとの報告があります。また、ダンボール箱については、古紙リサイクルに回す前に箱として再利用され、その量は、一カ月約300箱くらいとなっています。

**Q** 壁のカパルなパック…芸術的ですね？

**A** 牛乳パック等の紙パックは、業者ごとに持ち帰って頂いております。ですが、使われた30種類近くの商品を回収者が回収にあたっては、分別が大変複雑なのです。そこで、アルバイターの力を、分別に慣れた方法でも簡単に分別できるように考えたのがこの方法です。業者ごとの回収パックの上の壁に、商品のパッケージ見本を貼り出しました。細か

い分別を正確に行うため、このように受け皿を整えて、協力しやすい形にする工夫が効果的ですね。

**Q** お客様へも呼びかけを？

**A** 運泊されるお客様には、タオル交換が必要かを尋ねるようにしています。着沢を味わいたいとの希望から、日本人のお客様からの反応はあまりありませんが、文化の違いから、外国のお客様には喜んで協力して下さる方が多いですね。また、からすま京都ホテルでは「ペーパー・ボックス」を小分けの使い捨て器に入れず、ポット式にしてあります。このように「ビニ」にめも環境保全やごみ減らしへの思いを、少しでも感じて頂ければ、緑の下の力持ちとしてこれ以上の喜びはありません。今後も、快適な空間と語園を提供するため、お客様が目につくところでも見えないところでも、時代の先を託した取り組みを展開していきたいと思えます。

### 京都ホテルごみの分別

ゴミ	一般ゴミ・生ゴミ・煙草の吸殻・粗大ゴミ
缶	スチール缶・アルミ缶・飲料水以外の缶
プラスチック	飲料水類のペットボトル・洗剤等のポリ容器・発泡スチロール
紙	新聞紙・雑誌・OA紙・段ボール・紙パック
ビン	透明ビン・茶色ビン・緑・黒その他のビン・割れたビン・リターナブルビン
廃食用油	サラダ油・白絞油等・動物性油の廃油・固形燃料
その他	乾電池・ワイン等のコルク栓・蛍光灯・白熱灯等・剃り箸・トナーカートリッジ・ペットボトルのキャップ・ビン類の等の王冠

# 「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

取材：岡かおる

## 発足準備はわずか1カ月、 スーパー店頭での回収が定着

かしの  
葛野ごみ減量推進会議（右京区）

葛野ごみ減量推進会議が使用済み天ぷら油の回収を始め、5年。女性会の藤田比沙子会長を中心に進められた同会の立ち上げは早かった。すでにしっかりとした基盤があったため、回収拠点の決定、町内への広報、役割分担など、準備はわずか1カ月で整ったという。

2カ所の拠点には、回収当日の朝、業者がドラム缶を設置し昼前に再び回収にやってくる。1カ所はスーパーの店頭のため、買い物ついでに立ち寄る人が多い。宣伝効果もあるためスーパー側も好意的に受け入れてくれている。毎月の回収量は80リットル前後、参加人数は20人程度という。回収時は、常に1人が2人の会員がついており、油を持参した人には協力のお礼として、缶・びん・ペットボトル回収用の透明袋を1枚ずつ手渡している。発足当初は、他に数人の役員にもポリタンクを設置し回収を試みたものの、火の心配や重いポリタンクを運搬する負担などのため中止された。

今のところ運営はうまくいっている。自治会と協力してもう少し啓発力を入れようと思うが、結局は口コミによる効果が一番とのこと。悩みは廃油を持参したあとの油の付いたペットボトルの処理。また、担当者をなかなか当番制にできない状況も課題の一つだ。この他、同会では公園の清掃活動や小学校での空き缶回収にも協力している。

- ◆会長：藤田比沙子
- ◆会員数：170人
- ◆発足：1998年1月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：毎月第4土曜日、午前10時～11時。回収拠点はスーパー丸善と西大丸公園の2カ所。



この日は集会所で2回目の食卓会。忙しい準備の中、取材に応じて下さったみなさん。後ろ左から葛野比沙子さん、岡崎さん、藤田さん。前が会長の藤田比沙子さん。

## 地元協議会の共同運営、 毎年全戸にポスター配布で住民に浸透

ちゅうこう  
中立地域ごみ減量推進会議（上京区）

御所の西に位置する中立学区に住民福祉協議会を母体としてごみ減量推進会議が発足したのは4年前。以後、使用済み天ぷら油の回収は、保健協議会の協力を得ながら続けられている。

年度はじめに、全世帯に配られるポスターには「使用済み食用油はごみ収集車の燃料に再生します。流さないで！捨てないで！」という呼びかけとともに、年間の回収日と回収拠点の地図が書かれている。回収は個人の家の前、まち美化事務所の他、4カ所のマンションでも行われている。毎月の回収量はおよそ90～190リットル。月に一度、半日の回収なのに、担当者特に負担感はないが、年に2回、お礼としてディッシュを渡している。



写真提供：ちゅうこうごみ減量推進会議事務局

地元とのつながりが深い歴史ある地域のため役員中心に進められてきた活動だが、新しく拠点に加わってくれる人も出てきた。発足当時10カ所だった拠点は現在111になったが、その後はなかなか増えないのが悩み。また現在、個人経営の商店から出る廃油も受け入れているが、回収量には関係なく住民の「啓発」を目的にしたものでいいのか、それとも実際走っている収集車の燃料確保のための「事業」として回収量を増やすよう呼びかけた方がいいのか「今の状況は曖昧」と、会長の小林さん。

他に同会では、昨年始まった小型金属回収の導入時、スムーズに地域に受け入れられるよう協力も。今後は、できれば買い物袋持参も呼びかけていきたいとのことだ。



右が会長の小林研二さん。左が保健協議会会長の宇野聖一さん。

- ◆会長：小林研二
- ◆会員数：1450世帯
- ◆発足：1999年3月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：毎月第2金曜日。午前9時～正午。回収拠点は現在11カ所。ただし、まち美化事務所など拠点では上記の回収日以外にも受け入れを行っている。

### 京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.23

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2003年（平成15年）6月発行  
〒604-8571 京都市中京区寺町御池  
京都市環境局環境企画部循環型社会推進課内  
TEL 075-257-5053 FAX 075-213-0453  
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp  
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会  
委員長/寺島見 副委員長/宮本時夫  
実行委員/浅利美鈴・大橋正明・岡松誠一・芝田直樹・田中真砂世・中島和子・西田敏光・細川万里子・前田純一・森田知都子・山本史忠

古紙100%の再生紙（白色度70）に大豆油インクで  
風力発電による自然エネルギーを用いて印刷しています。

### 【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

### 【会費】

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| 市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） | 1口1千円    |
| 専門家（学識経験者等）          | （年間1口以上） |
| 地域ごみ減量推進会議           |          |
| 大学・マスメディア・事業者団体      | 1口1千円    |
| 企業等・行政               | （年間2口以上） |

詳細は、事務局へお問い合わせください。